

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500171		
法人名	吉村商工		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	宮崎県小林市南西方1992番地13		
自己評価作成日	令和6年1月13日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業の理念を理解し入居者様の気持ちに寄り添い安心して穏やかな日常生活が送れる援助を心掛けています。身体や精神面での些細な変化を見逃さないよう事業所の心得として目配り・気配り・心配りに取り組んでいる。体調面での不安や急変時は協力医と連携を図り相談できる体制を整えている。終末期に対しては医師・看護師と密に連携を取りご家族様と一緒に過ごせる時間を作る等の配慮をしている。花見やドライブ、年間行事に参加していただき季節の移り変わりを感じてもらいながら日々の生活に楽しみを持っていただけるよう努めています。感染予防対策として消毒、環境整備、手洗い、マスク使用等の声掛けと細目な換気に全職員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年4月に開設されたグループホームで、隣に同じ系列のグループホームが設置されている。防災訓練では合同で訓練を行っている。建物はオール電化になっている。食堂ホール、廊下には天窗があり、また、多くの電灯が設置され明るい。浴室にはリフトが設置され浴槽に入ることが困難な利用者も浴槽に入ることが出来る。菜園があり四季の旬の野菜を栽培し、行事食や誕生日には彩の良い食材を調理して提供している。居室には、クローゼットが設置されタンスや衣類など収納出来、居室が広く使用できる。医療同意や意思確認、受診後の家族の説明を協力医が積極的に行っている。看取りや訪問診療は日中、夜間を問わず協力医の協力体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業の理念と基本方針を元に利用者様中心で穏やかな生活ができる施設を目指し事業所の目標も全職員で取り組めるよう努めている。	理念を送り時の時復唱している。「やさしい介護を提供し」では、介護の時、動作を一つひとつ伝えてやさしく介護するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ、インフルエンザ感染が懸念されている中、敷地内の散策時に声を掛けていただいたり、近隣の方の庭の見学時等に声掛けをいただいている。	コロナ禍で地域の行事はほとんど開催されなかった。近隣の方から「庭に桜が咲いた。藤の花が咲いたから見に来て。」と声掛けがあり交流を行っている。自治会に加入している。今後、行事などの案内があり参加の計画がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方とは窓越しでのコミュニケーションや運営推進会議を通じて区長様、民生委員の方々に向けて情報を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の資料の中に日常生活や各行事や取り組みの写真を添付し報告をしている。委員の方々の意見や感想を取り入れてその後の活動や日常生活の向上に努めている。	面会が出来ない状況が続き、「家族は、利用者の日常が知りたいのではないかと意見を頂き、お便りに食事風景、レクリエーション活動など日常生活の写真を掲載し送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市担当者や包括支援センターの職員と意見交換を行い会議以外にも連絡や相談をし助言や支持を仰いでいる。	市の担当者とは、電話で介護保険制度の見直しや介護計画書作成について意見や助言を頂いて連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を実施、取り入れたアンケートの中で身体拘束を理解できている又、身体拘束に繋がる不適切な介護にならないよう確認しながらケアに取り組んでいる。	研修は年間計画で3回おこなっている。内容は法令や禁止事項など幅広く実施している。研修後にアンケートを行い職員の理解度を確認している。その年のアンケートは、次年度の研修後のアンケートと比較する資料としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	来年度に向けて委員会が設立され各部署の代表が出席し資料を元に話し合いや意見交換、全体研修を実施し全体での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者がおられ、ご家族や関係者の方々とも定期的に話し合い、状況報告が出来ている。今後も関係性を深め活用支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行いご家族様、ご本人の感じた疑問や不安、意向を確認しながら理解、納得して頂いた上で契約を行っている。解約についても同様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面接や電話の際に日常の様子を伝えつつご家族様からの意見や要望をスタッフ全員で伺える体制は整えている。タブレット導入、たより、面会や話し合いにも反映させている。	コロナ禍で外出、外泊など出来なかった。外出、外泊の要望があった。職員で検討し、日常生活の様子を動画に取り、家族に送り喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて各職員の意見や要望を話し合っている。管理者から代表者へ内容の報告、相談を行い運営に反映できるよう取り組んでいる。	ベッド柵に手や足をぶつけてあざや内出血があり、ベッド柵に付けるウレタンマットの購入の相談があり、直ぐに購入し取り付け怪我など防止できた。職員の意見は、管理者が相談を受け代表者に伝え直ぐに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見が発しやすく相談しやすい環境を作り改善を図りながら、お互いに気配り、心配りを心掛け、無理のないよりよい職場環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員の資料や、まとめた内容を閲覧する機会を設けている。利用者全員の情報共有を基本として研修で得た内容が日々のケアに生かせるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため連絡協議会への参加はできなかったが県介護支援専門員協会への入会や他施設との意見交換を通して交流の場を設ける取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の雰囲気やスタッフ、他利用者様の印象を確認していただいている。本人の不安や要望を話しやすい雰囲気作りと傾聴する姿勢を整え安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や連絡時、日常の様子を報告し不安に思っている事や要望などを傾聴し話しやすい環境と関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れていただくために自宅での生活の様子を伺い、本人やご家族の要望を確認し関係機関との情報交換をしながら必要な支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は本人のペースで続けていただき、できない事はサポートしながら一緒に行うことでできる喜びが持てる工夫をし共に生活できる関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況報告時、ご家族の近況も伺い必要時の病院受診同行の協力が得られている。日頃の会話や行動の中での不安や不満の解消に努め共に本人を支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出制限がある中、季節ごとのドライブの際、馴染みの場所や自宅近隣に出向き、馴染みの方と顔を合わせる機会も出ている。	コロナ禍で近所のお店に買い物など行けなかった。理美容は、訪問で来てくれるところで行っている。友人、知人が窓越しの面会に来てくれ関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子や会話の内容を把握し、必要時には職員も話題を提供したり、時には席替えをして会話の変化や楽しみが増える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご家族様からも声掛けをいただいております。近況報告を通して関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や行動、表情からその時々々の思いや意向を把握し希望に添った暮らし方ができているか検討している。	思いや意向が言葉で伝えられない利用者には、家族から聞いている。職員は、日常生活の中で表情を見て把握し経過記録に記載し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関係者から得た情報を元に、これまでの生活環境や状況の把握に努めている。知り得た情報も含め全職員で共有しサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康観察、活動状況、身体的リズム、服薬状況を全職員で記録、確認する事で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃のかかわりや、会話、行動の中から得られた意見や要望を、家族や職員と共有し、話し合いながら定期的な評価を行い、本人、家族の要望に添った介護に反映させている。	介護計画書の定期的見直しは6か月である。退院後状態の変化により見直しを行っている。モニタリングは毎月行っている。利用者の日ごろの状況は共有ノートに書き、朝礼で共有し介護計画書に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については、様式を変更し、ケアの実践、結果、日常の様子以外にも、バイタル、食事、水分摂取量がひと目で確認でき、職員間での情報の共有、計画書作成の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するグループホームとの合同の避難訓練や花壇の花植えの交流、菓子職人をされていた利用者様にケーキを作っていただき、ご本人の意欲の向上、ご家族様の喜びの声が聞かれた。このようなサービスを増やせるよう取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の本を活用する事で楽しみや得意な事を見だし、Youtubeで馴染みの場所の映像を視聴しながら会話を弾み、思い出や楽しみが増やせる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月一回の訪問診療を受けており、体調変化時も密に連絡を行い、指示を仰ぎ対応している。必要時は医師より家族へ直接連絡していただける体制も整っている。今年度のワクチン接種は施設にて集団接種の対応をしていただけた。	受診は職員が付き添い支援している。病状や薬については、協力医から家族に連絡して伝えている。受診後職員は、送りノートと受診ノートに記載し情報共有を行っている。他科受診は協力医の指示で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や不安が見られた際は協力医の看護師を通じてスムーズな受診や医師から適切な対応や助言を得られる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーにて情報提供し、必要時は電話にて詳細な情報交換も実施している。入院時は家族や病院関係者から情報収集をし、退院後も病院関係者と連絡を取り、情報交換し相談できる関係づくりができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時の受診の際、本人、家族同席の上で協力医の説明を受け終末期の意思確認の整備、看取りについての協議を行っている。終末期に向け医師や看護師と連携を図りながら本人や家族が安心して穏やかな終末期を迎えられる体制に取り組んでいる。	入居前に協力医から重度化や終末期について説明があり、意思確認書を取り看取りを行っている。重度化に伴い、本人、家族の意向を踏まえて意思確認を行ない、支援経過記録に記載し職員に共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で実施出来ていなかったがAEDを利用した救急法の資料を準備し消防立会いの元、講習を受けた。その後も動画配信等活用し、全ての職員で応急手当ができ、又隣接する施設との応援体制に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて地域の区長、民生委員、消防団の方々との協力確認は得られている。消防署立ち合い、又は自主避難訓練を定期的に行い、職員、入居者全員で振り返りの為に動画視聴、又企業全体の連絡網を作り職員全体で協力できる体制を築いている。	年2回、防災訓練を隣のグループホームと合同で地域住民も協力し、日中の火災を想定した訓練を行っている。訓練の様子を動画に撮り利用者、職員で見確認し記録に残している。地震訓練は、動画で視聴している。	防災訓練を実施しているが、夜間想定した火災訓練や地震を想定した訓練は実施されていません。今後、夜間の火災、地震訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を重視した話しかけ、わかりやすく聞き取りやすい言葉で対応している。プライバシーを損ねないようにトイレや入浴時は周りを気にされないよう十分な配慮を行っている。	トイレ誘導、介助は、人格を尊重した、一つひとつ聞き取りやすいやさしい声掛け、介助を心掛けている。入浴時の洗体介護は、利用者に確認しプライバシーに十分配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすくはっきりとした言葉で話しかけ意思疎通を図りながら本人の想いを聞けるよう対応している。自己決定しやすいよう本人のタイミングに合わせた環境や雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ本人が好まれることは本人のペースに合わせ寄り添う支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選んで楽しまれており、迷った時は職員の助言を仰ぐ方もいる。季節の変わりめは着衣の調整の助言を行い快適に過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事食や、本人に合わせた食事形態で対応し、盛り付けや配膳を工夫している。数人の方はエプロンたたみやご自身のエプロン洗い、コップのかたづけ等、一緒に行っている。	四季の行事食や誕生日のメニューは、菜園から収穫した旬の野菜が彩り良く調理されている。テーブル拭きやコップの片付け、ケーキ作りなど利用者の出来ることを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事量や食事形態(ミキサー食刻み)の工夫、介護用スプーン導入等の支援を行い必要時は食事介助も行っている。食事、水分の摂取量は介護記録に記入し体調、健康状態と共に把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下障害防止のためパタカラ体操や音読や合唱等の口腔体操を行っている。毎食後の口腔ケアの声掛けと義歯や歯磨きの不十分な所は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し定期的な声掛けとトイレ誘導を行う事で本人からのトイレの訴えも増えている。立ち座りや立位保持が安定できるよう体操や日常の活動の中で筋力アップできる支援を行っている。	日中オムツの利用者もトイレ誘導を行っている。定期的な声掛けや誘導でオムツの使用枚数が少なくなった利用者もいる。オムツの種類の見直しは、ミーティングで行い、本人に合ったものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て排便の状況を把握、食事摂取量、水分摂取量も確認し、個々が摂取しやすいよう工夫し便秘の方は主治医に相談、指示を仰ぎながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングを見て入浴の声掛けを行い、一緒に準備を行っている。体調や本人のペースに合わせて、拒否がある時は日時を変更するなど、その方々に沿った支援を行っている。手作りのEM石鹸を使用し痒みの軽減に努めている。	週2回から3回行い、皮膚疾患の利用者は毎日行っている。入浴介助は、利用者に合わせて2人介助で行う事もある。浴槽に入れない方のためにリフトが設置されている。季節湯では、柚子湯を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、軽く仮眠をとられる方、居室でテレビ視聴される方、ホールにて職員と過ごされる方などその方々に応じた対応を行っている。夜間は、本人希望でシャッターを降ろす方や、不安で電灯を点けたままの方もおられ、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時、日付け・名前等、三重にチェックし、本人にも一緒に確認した後、服用していただいている。処方箋も最新の物をファイルし、変更があった際は全職員に申し送り、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	エプロンや洗濯物たたみができる方は、本人から職員へ声を掛けて下さったり、新聞紙たたみは、戸惑っている方に声掛ける等、協力されている場面もみられる。一緒に歌を歌う等、役割や楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花壇の花植えや敷地内の散歩以外に、季節ごとの花見ドライブ時に、自宅近くや近隣の名所、馴染みの場所に行き、思い出話や昔話を楽しませている。	コロナ禍で近所のお店に買い物や外出など出来なかった。ドライブでは、生駒高原のコスモスや出の山公園、牧場の桜、高原町のアジサイなど全員で見に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方はご自身で少しの金額をお持ちの方もいる。認知症があり管理は難しくなっておりご家族に確認していただく事もある。各自の出納帳を施設で管理しており本人希望があれば必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を希望される時は直ぐに対応できるように連絡先の一覧表を作成し、職員が対応できるようにしている。タブレットを使ったビデオ通話は本人、家族も喜んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の清掃・消毒・換気・温度調整には十分注意を払い、心地よく快適に過ごせる空間づくりに努めている。季節の花を飾り行事ごとに作成した作品を展示し、楽しみながら穏やかに過ごせる工夫をしている。	食堂ホールや廊下に天窓があり、また、電灯がたくさん設置され明るい。トイレの両脇に上げ下げ出来る手すりが設置されている。食堂ホールにテーブルやソファが多く配置されくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファはいつでも自由に使っていただき、時には設置場所を変え視野の変化を楽しんでいただいている。テーブル席も定期的に入れ替え、会話を楽しめる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や居室で過ごしている時間を観察しベッドや収納の使い易いセッティングを行い、カレンダーやご家族の写真を飾ったり自宅で過ごしている様な空間作りを行っている。希望時はテーブルや椅子の設置も行っている。	居室にはクローゼットが設置され、タンスや衣類など収納されている。家族写真や椅子、時計、カレンダーなど持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはドアではなくカーテンのためスムーズに出入りでき、トイレの入り口には分かりやすく大きな文字で表示している。施設内はバリアフリーになっており動線上に障害になる物を無くし安全、安心して生活できる空間作りを心掛けている。		